

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
14061	アートマネジメント概論	2単位 後期	1～4	講義	谷本 裕・神谷 武史 仲嶺 絵里奈(非) 小越 友也(非)

■テーマ 社会の中の芸術を考える

### ■授業の概要

近年、社会における芸術の役割は少しずつ拡大してきた。芸術文化そのものの価値に加え、例えば人と人を結びつける芸術の力が注目を集めるようになってきている。そのような中、芸術大学に在籍する者が、芸術と社会を結び付ける「アートマネジメント」、それと関わりの深い文化政策について学ぶ必要性は極めて高い。この講義では、各担当教員の実務経験を活かして、音楽・芸能と美術工芸の両分野、あるいは「理論」「歴史」「実践」の三つの研究領域を往還し、多様なテーマを取り上げる。

### ■到達目標

- ・芸術に関わる者が、芸術・文化活動を続けていく上で必要な基礎的な知識と方法論を習得する。
- ・日本や海外のアートマネジメントの展開と現状、沖縄における実践例を理解する。
- ・現代社会においてアートマネジメントがどんな役割を果たせるのか、その可能性と課題について考える。

### ■授業計画・方法

- 1 ガイダンス：芸術と社会（著作権を主軸に）
- 2 日本の文化政策（行政編）
- 3 日本の文化政策（民間・メセナ編）
- 4 戦後沖縄米軍占領下における文化行政
- 5 沖縄における文化行政
- 6 博物館とアートマネジメント
- 7 アートマネジメント実務
- 8 社会と芸術作品 そしてアーティストとは
- 9 公立ホールの事業 劇場の設備と仕事
- 10 公立ホールの事業 がらまんホールの事例
- 11 公立ホールの事業 教育・アウトリーチ
- 12 公立ホールの事業 アーティストインタビュー
- 13 クラシック音楽のアートマネジメント
- 14 琉球芸能・郷土芸能とアートマネジメント
- 15 アートマネジメント概念の拡大（社会包摂）

※定期試験は行わず、レポートを課す。

### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・ふだんから、自分の専門領域における様々な芸術活動、社会における芸術家の活動に興味関心を持つように心掛け、講義で取り上げられるテーマについて、できるだけ事前学習しておくこと。
- ・講義で配布した資料は熟読すること。また授業で取り上げられた参考文献にあたり、また芸術関連事業を調べるなどし、将来の自らの活動領域の確認とその拡大を図ること。

### ■成績評価の方法・基準

#### □方法

- ・授業への積極的参加（40%）、コメントペーパー（10%）、期末レポート（50%）により総合的に判断し、評価する。

#### □基準

- ・到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。
- ・アートマネジメントの展開や現状について説明することができるか。
- ・アート及びアートマネジメントが社会に果たす役割について、各自の芸術文化活動と重ね合わせてその可能性と課題を分析することができるか。

### ■教科書・参考文献（資料）等

講義ごとに、必要に応じて配布、または指定する。